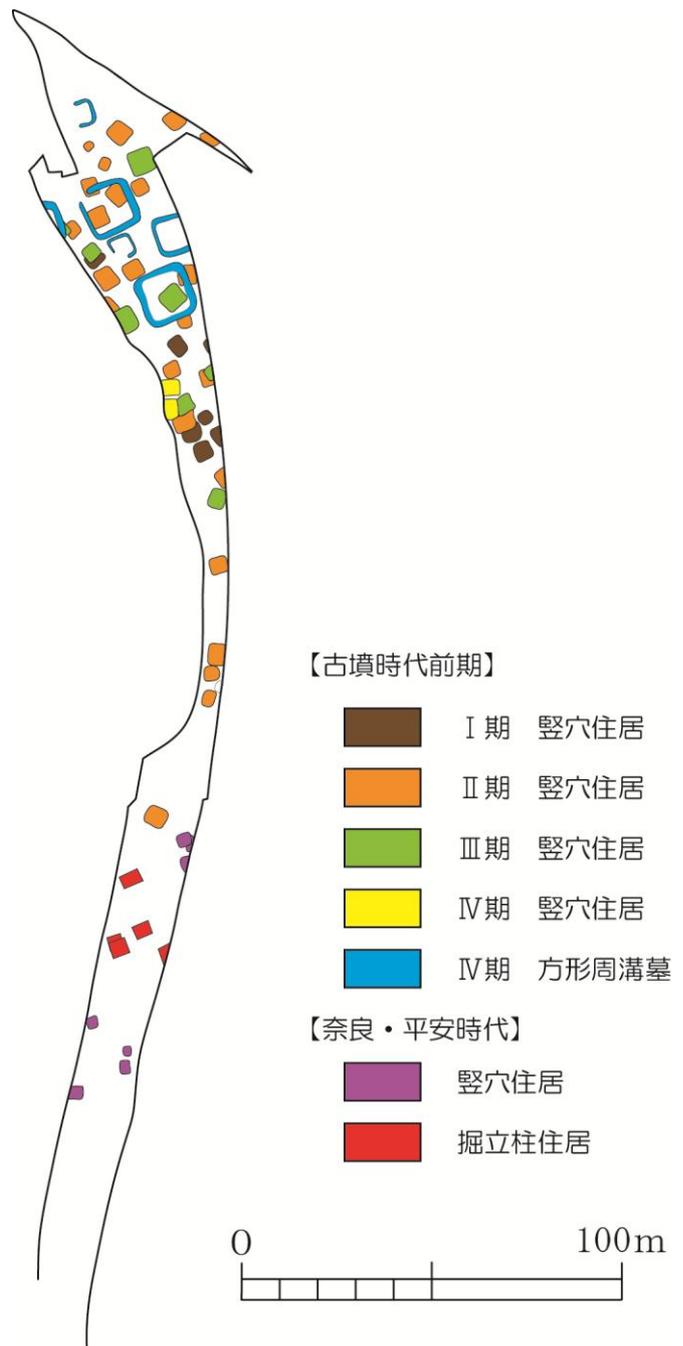


## 上大城遺跡—民間仏教が伝わった遺跡—

上大城遺跡は、袖ヶ浦市代宿に所在し、椎の森工業団地の南東部に隣接しています。標高は約 45 mで、西に延びる細尾根状の台地に位置します。今までに3回の発掘調査が行われており、今回ご紹介するのは平成2～4年度に市道の建設工事に伴って発掘調査が行われた第1次調査です。調査の結果、古墳時代前期（今から約1,600年前）や、奈良・平安時代（今から1,100～1,300年前）の集落が発見され、奈良・平安時代の集落からは仏教的色彩の強い遺物が見つかりました。

発見された古墳時代の集落は、古墳時代前期の初め（Ⅰ～Ⅲ期）は竪穴住居が建てられた居住域として使われていましたが、前期後半に（Ⅳ期）になると方形周溝墓（四角形に形作った溝に囲まれたお墓）や円墳（円形の古墳）が造られる墓域へと変化していったことがわかりました。

奈良・平安時代の集落から発見された遺物の中には、瓦塔・瓦堂（木造建築物の塔やお堂を真似て作られた土製の小さな塔）や、浄瓶（僧侶が持たなくてはならなかった道具の一つ）、瓦、墨書土器（墨で書かれた文字や絵が残っている土器）といった仏教信仰を連想させるような遺物が見つかりました。古代寺院を連想させるような大型の建物の痕跡は見つかりませんでした。1辺5m前後の掘立柱建物（柱を直接地面に埋めた建物）が建てられた痕跡が見つかりました。建物の大きさから僧侶の常住は考えづらく、集落内の小仏堂としての役割をもっていたのではないかと考えられます。



上大城遺跡遺構配置図（1：2,000）



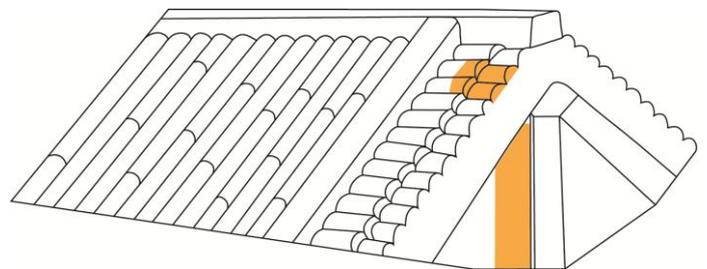
上大城遺跡調査の様子  
(四角形の窪みが竪穴住居)



上大城遺跡出土土器  
(古墳時代前期)



上大城遺跡出土瓦塔・瓦堂  
(奈良・平安時代仏教関係遺物)



瓦塔・瓦堂復元図  
(着色部が出土物の想定箇所)